

## まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 ソフトエアロピクスの会
2. 日 時 平成 29 年 11 月 29 日（水） 11 時 00 分～12 時 00 分
3. 場 所 川島ライフデザインセンター 集会室
4. 出 席 者 <参加団体>7 名 <市> 市長・川島ライフデザインセンター館長
5. テ ー マ ①健康的なまちづくり ②高齢者が安心して住めるまち  
③子育てがしやすいまち

### （テーマ①：健康的なまちづくり）

【参加者】 私たちは、老化防止や筋力維持などを目標に活動しています。活動前より膝や腰が痛かったのが良くなっているのを感じますし、同世代の方より若い体でいるなあと感じます。老化は止められないので、そのスピードを緩やかにすることが大事ですね。

【参加者】 「つらい」「きつい」では続きませんので、楽しくできることが一番です。来なければ良いことをしていても意味がありませんので、まず来ていただくということが大事ですね。

【参加者】 各務原市は健康教室などが少ないように感じます。鵜沼地区の遠い方が近くにないので、稲羽や川島まで来なければいけないということも聞きます。そのような場所が近くにあると参加しやすいですね。

【市長】 こういった時に市では出前講座をご紹介しています。意外と知られていない方が多く、幅広い講座があり、場所が確保できれば地域の公民館等でも開催できます。出前講座をきっかけに活動を継続し、サークル活動に発展することもあり得ますので、そういった形での活用を自治会等にも勧めています。今後も上手に PR していきたいですね。

また、2025 年には介護給付費の支出が約 150 億円になってしまうと予想されていますので、皆さんのように健康でいてもらうことが一番大事なことになります。これからもソフトエアロピクスを通じて心も体も健康にご活躍いただきたいと思います。

### （テーマ②：高齢者が安心して住めるまち）

【参加者】 高齢者は運転できる人に頼らないといけなくなります。私はまだ運転できるので良いですが、運転できなくなった後に活動範囲が狭くなるのは嫌なので、活動に参加したいという高齢者の応援のためにも公共交通機関がもっと便利になると良いと思います。

【参加者】 高齢者が外出すれば、元気にもなりますし、外でお金も使うので経済効果も見込めると思っています。ふれあいバスで便利に買い物ができるようになればいいと思います。

【市長】 ふれあいバスは平成 27 年度に大幅なリニューアルを行い、バスの台数も 6 台から 9 台に増やしました。高齢化率の高い地域をカバーすることで、高齢者の孤立化を回避するという狙いもあり現在の形になりました。しかし、現在の路線もまだ完成形ではないので、各地区で住民懇談会を行い、地域の声をうかがいながら検討を繰り返しております。毎年 4 月・5 月には、川島地区の高校生の利用を考慮し、一部区間を 2 台に増便するという対策も行っています。また、昨年のふれあいバスの乗降調査の結果から、乗車率の低い時間帯の便を、他の必要な便に有効活用できないかという検討もしております。リニューアルから 2 年が経過し、見えてきた課題もありますので、改善を重ねながら、もっと多くの方に利用していただけるような形を目指していきたいと思っております。

【参加者】 広報紙が月2回は多いのではという話をよく聞きます。読まない人は全く読みませんし、もっと情報を凝縮して作れば月1回で済むんじゃないかと思います。

【市長】 読んでいただいている方は高齢者が多いです。原稿の締め切りから広報紙ができるまでには時間がかかります。その間にも新たな情報が入ってきて、それを周知しないといけないと考えると、月に2回くらい必要だと考えています。月1回だと情報が古くなってしまふんです。皆さんはスマホやパソコンで調べられるので大丈夫ですが、高齢の方にはまだまだ月2回の広報紙が必要かなと思います。

### (テーマ③：子育てがしやすいまち)

【参加者】 川島地区は1世帯当たりの子どもの人数が多いように感じますので、川島地区は各務原市の中でも子育てしやすい地域ということですね。

【参加者】 各務原市の福祉施設に子ども達が行って、おじいちゃんやおばあちゃんと触れ合う事業もとてもいい事業だと思います。

【参加者】 子ども館も、ふらっと行って遊んでもらえるのでとても助かると思います。

【市長】 子ども館だけでなく、幼稚園が未就園児が親子で交流できる場所を提供するという取り組みもしています。川島地区の幼稚園や保育園、認定子ども園は独自性がありますし、それぞれが近くにあるので、良い相乗効果があり、お子さんも預けやすい環境だと思います。

今年度、中学校区を単位として、地域と学校が連携・協力して、地域全体で地域の宝であり未来を担う子どもたちの成長を支えることを目指す「コミュニティ・スクール」を、川島と稲羽地区で試行的に行っており、平成32年度には全中学校区で実施するという方針を立てているところです。

また、小学生と中学生、小学生と幼稚園児などで交流をするといった取り組みも、校区ごとに実施しております。

【参加者】 近年は川島に建売の家が増え、県外からも引っ越してみえて、年齢層もぐんと下がっています。そういう方で、ちょっと家庭菜園をしたいけど、畑を貸してもらったりしませんかという声をよく聞きます。若くて畑に興味がある方が増えているので、それが広がると良いと思います。

【市長】 市にも市民農園というものがありますが、残念ながら川島地区にはありません。

【参加者】 川島地区は畑を持っている人が多いので、市民農園が無くても大丈夫ですね。ほったらかしで雑草が繁茂している畑もたくさんありますし。

### ○参加者まとめのことは

川島地区は、生涯学習が盛んで、目を向ける人はいっぱい参加されますが、見ない人は全く知りません。時間と体力は必要ですが、絶対やっていて良かったなと思うので、もっと生涯学習が盛んになって欲しいと思います。

### ○市長まとめのことは

本日は、現在の課題と未来の課題に対するアドバイスをたくさん頂けました。今後も子どもの世代だけでなく、高齢者の方々にもしっかりと生きがいを持って住んでいただけるような展開をしていきたいと思っています。今日しゃべり足りないと思った方は、私は生涯学習発表会にもお邪魔しますので、見かけた際はぜひお声がけください。